

令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①生徒の学び直しと日本語支援を充実させ、学ぶことに苦手意識を持つ生徒の生きる力の基礎となる能力の習得を目指す。 ②生徒の実情やニーズを踏まえた多様な学習機会の整備を図るため、ICTの活用を含めた環境整備、外部連携を推進する。 ③教科横断的な視点に立ち、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を育成する。	①②生徒一人ひとりの実情に応じたより効果的な指導の確立を目指すとともに、社会的ニーズを踏まえ、多様な学習機会の整備を進める。 ③教科横断的な視点に立ち、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を育成する。	①課題のある生徒に対しての効果的な指導法について検討するべく、学校設定科目「ホープ」で得られた生徒情報を職員全体で共有する。 ②生徒が主体的に学習を深めていくようにするため、ICTをどのように利用について「ホープ」の中での取り組みを進める。 ③教科横断的な視点に立ち言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を育成するために、総合的な探究の時間を充実させ、その成果を発表する場である「課題探究発表会」を継続する。	①学校設定科目「ホープ」で得られた生徒情報を職員全体で共有し、効果的な指導ができたか。 ②ICTの利用について「ホープ」の中での取り組みが効果的な指導につながったか。 ③総合的な探究の時間での教科横断的な視点を持った取り組みができたか。また、生徒は「課題探究発表会」での発表に向けて前向きに取り組めたか。
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえたきめ細かな生活指導と相談体制を充実させる。 ②部活動を充実させ、生徒が有能感を感じられる取組みを進め、また行事等においても生徒の主体的な活動を支援する。	①生徒の現状や課題の把握と支援方法について、全教員で情報共有を図り、実情に即した支援を行いながら生徒の自立を目指す。また、スクール・カウンセラー（SC）やスクール・ソーシャル・ワーカー（SSW）との連携及び組織的・計画的な校内体制を確立する。 ②部活動・行事等の活性化を図るため、限られた時間の範囲で、コミュニケーションを広げ、有能感と自己肯定感を得られるよう、内容と指導方法の工夫をする。	①毎月の会議等において、生徒の現状と課題、支援方法等を全体共有する。また、校内研修会等を活用し生徒一人一人の理解を深め指導に活かす。 ①きめ細かな生活指導と充実した個別相談を行い、生徒の困り感への早期対応と問題行動の未然防止に努める。 ①各種掲示物とICTを活用し、生活・健康・安全・食育等についての情報発信と健康上・指導上の問題等の未然防止に繋げる。 ①食堂の利用実態の把握と利用率向上、食育指導の充実を図る。 ②部活動・行事等の時間の確保と部活動週間等を活用し、限られた時間内で充実した活動内容の工夫と活性化を図る。	①SCやSSWと計画的かつ迅速に連携し、学年会や全体会議等で情報を共有して、きめ細かな指導や生活支援により、生徒の課題解決に繋げることができたか。 ①全生徒への情報発信を積極的に行い、学校生活や健康上の問題、生徒指導上の問題等を未然に防ぐことができたか。 ①食堂利用の実態を把握し、利用率向上と食育指導に繋がられたか。 ②限られた活動時間を有効活用し、部活動・行事等がより活性化し、生徒が参加しやすい状況を作れたか、心の充実度や達成感が増したか。
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの自己実現を目指すし、教育活動全体を通したキャリア教育を推進し、4年間を見通したキャリア教育を実現する。 ②進路情報の提供について外部との連携を図り、内容を充実させる。	①4年間を見通したキャリア支援プログラムを策定し、グループ、学年、教科、外部機関が連携し、組織的かつ継続的に、学校全体で生徒のキャリア支援を推進する。 ② 進路選択における情報提供を外部と連携し効果的に行う。	①4年間を見通した進路指導を組織的かつ継続的に推進するためのキャリア支援プログラムを策定する。 ①個人面談、授業やLHR等を利用し、個々の生徒に配慮した支援を行う。 ①「ハンディ進路指導室」を活用した情報提供等、効果的な進路指導を推進する。 ②生徒のキャリア意識を高めるために、進路ガイダンス、就職セミナー等をハローワークやキャリアコンサルタントなど外部機関と連携して実施する。	①4年間を見通したキャリア支援プログラムを策定できたか。 ①進路ガイダンス、進路なんでも相談、個人面談等を効果的に実施することで、生徒のキャリア意識を高めることができたか。 ①進級・卒業・進路決定に向けて生徒が主体的に考え、行動し、望んだ進路を実現できたか。 ②情報提供等の進路支援で、生徒が自ら進路活動に取り組むようになり、各自に合った進路情報や自分の進路を主体的に考えることができたトル
4	地域等との協働	①保護者や地域と協働・連携した教育活動を展開し、信頼される学校づくりを行う。 ②教科やキャリア教育の観点で協働を図り。地域に根ざした学校を目指す。	①地域貢献活動・ボランティアや文化祭等の学校行事を活性化し、保護者や地域（地元商店街等含む）、関係機関の方々との連携を深める。また、ホームページ等による情報発信や広報活動を積極的に行い、希望ヶ丘高校定時制の特色や良さをより正確に本校を理解してもらう。 ②教科やキャリア教育における地域との協働についての施策を検討する。	①地域貢献活動や文化祭等の学校行事を通して、本校と外部の関係機関、地域、保護者との連携を深め、信頼されて活気のある学校づくりを行う。 ①ホームページの定期的な更新を積極的に行い、広報活動を効果的に推進する。 ②総合的な探究の時間や進路活動の場面において、地域との協働の方法を検討または実施する。	①地域貢献活動や文化祭への参加者が増え、学校行事が活性化し、本校と外部の関係機関、地域、保護者・生徒との信頼関係が深まり、信頼される学校づくりにつながったか。 ①校内外での広報活動やホームページ等での情報発信を積極的に行うことで、希望ヶ丘高校定時制の良さをより正確に理解してもらうことができたか。 ②地域との関係を構築しつつ、次年度に繋げられる施策を検討または実施できたか。
5	学校管理 学校運営	①生徒にとって安全・安心な学校づくりを推進するとともに、職員一人ひとりが事故・不祥事防止に積極的に取り組む。 ②業務改善のために業務のスリム化やデータ管理などを推進する。	①生徒一人ひとりが、法律を遵守し、交通安全や防犯、防災等に高い意識をもって高校生活を過ごすことができるように、説明会や講演会、訓練等を行う。 ②職員の事故・不祥事防止については、職員全体で主体的に取り組み、ミスや不祥事の無い職場環境を維持する。	①関係外部機関と連携して、実践的な交通安全教育、防犯教育、防災教育を効果的に実施する。 ①防災用品や防災備蓄品の点検をしつつ、実践的な防災訓練を実施する。 ②定期テストの共通化、情報共有、複数による点検確認作業の徹底等を継続する。	①説明会、講演会、訓練等を効果的に実施することで、交通安全や防犯、防災に関する生徒の知識や理解を更に深めることができ、より安心で安全な学校づくりにつながったか。 ②事故や不祥事防止に取り組むことで、事故や不祥事を未然に防ぐことができ、ミスや事故・不祥事の無い職場環境を維持することができたか。